

2017年4月30日(日)朝10:10  
4月第5回同主日礼拝式説教

主の復活節第3、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教會

## 説教題：第7のラッパ；福音を携えた天の使い

聖書：ヨハネの黙示録 14章6～7節

＜口語訳＞

新約聖書400頁

ヨハネの黙示録 14章6～7節

＜新共同訳＞

新約聖書468頁

ヨハネの黙示録 14章6～7節

＜新改訳第3版＞

新約聖書491頁

ヨハネの黙示録14章6～7節

＜塚本訳＞

新約聖書806頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6～9章は、巻物開封、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦い、13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣との、11～18節は、第二の獣との戦い、1～5節は、天での小羊なる主への大讃美の箇所。
- ◇ヨハネの黙示録14章6～7節は、神の福音の宣告と地上の諸国への裁き宣告です。  
⇒神の幻は、神の福音と同時に神の裁き宣告でもあります。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第14章6～7節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録14章6節；ヨハネは、天の使いが神の福音とを携え、中空(なかぞら)を飛翔して福音を語る幻を啓示されました。

◇6節；塚本訳◆最後の悔い改めの戒告  
{第二の異象}

「6 また私はもう一人(他)の天使が、地に住む者、(すなわち)あらゆる国民と種族と国語と民とに宣べ伝うべき永遠の福音を携えて中空を飛ぶのを見た。」と、ヨハネは、小羊への大讃美に続くの第2の幻を啓示されました。

◇6節；ヨハネは、「もう一人(他)の天使」が、「地に住む者、(すなわち)あらゆる国民と種族と国語と民とに宣べ伝うべき永遠の福音を携えて中空を飛ぶのを見た」と、記録しました。

⇒「もう一人(他)の天使」とは、ヨハネ黙示録10:7や11:15の第7のラッパ吹く天使とは別の天使という意味です。

⇒3人の天使と別の天使3人が登場します。

⇒**龍(悪魔・サタン)**、「**第一の獣**」、「**第二の獣**」の**猛威・迫害**の幻を啓示されて、氣落ちしていましたが、小羊は、「**天のシオンの山**」に立ち、**天にある144,000人々の大讃美**を聞き、ヨハネは慰めを得ましたが、再び**天の福音**を携えて、**中空**を飛翔する**天使**を見て勇気を与えられたのでした。

⇒「**福音**」は、基本的に喜びの知らせで、ここでは、「**龍(悪魔・サタン)**、**第一の獣、第二の獣**」の支配に苦しむ地上の凡ての人々へ語られたものであることが強調されています。

⇒「**神の福音**」を聴いて、**福音**を喜ぶ人々もあれば、**福音**に反発して、益々その心を閉ざし、自分の生き方に固執する人々もあるのです。

⇒**第1の天使の役目**は、OS師が語られますように、「**翼のない私たちの任務**」であることを知らせるものもあるのです。

⇒100歳を超えるヨハネにも、マルコ16:15の「**塚本訳**:行って、全世界のすべての人間に**福音を説け**」の**神の御子の命令**が心に響いていたことでしょう。

⇒翼がない分、私たちの福音宣教は困難です。

◆黙示録14章7節;ヨハネは、天の使いが神の福音とともに、神の裁きの時が近づいたことをも啓示されました。

◇7節;塚本訳◆最後の悔い改めの戒告  
{第二の異象}

「7 彼は大声に言うた、「神を畏れ、彼に栄光を帰せよ。(今や)その審判の時が来たのである。天と地と海と水の源とを造り給うた者を拝め。」」と、ヨハネは、第2の幻の裁きを啓示されました。

◇7節;ヨハネは、「(今や)その審判の時が來た」ので、「神を畏れ、彼に栄光を帰せよ」、「天と地と海と水の源とを造り給うた者を拝め」との神の命令を「もう一人(他)の天使」が告げたことばを記録しました。

⇒この神の裁き宣言予告は、6節の福音宣言同様、地上にある凡ての人々に知らされるもので、OS師は、中空の天使の位置が、地上の凡ての人々に見え、凡ての人々に語れる場所であることを語っておられます。

⇒「神の福音」の中に喜び、希望はあるのです。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの默示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の默示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6～9章は、巻物開封、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦い、13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣との、11～18節は、第二の獣との戦い、1～5節は、天での小羊なる主への大讃美の箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録14章6～7節は、神の福音の宣告と地上の諸国への裁き宣告です。

⇒「神の栄光の御座」での「24人の長老」と「4つの生き物」の神礼拝・神讃美は、「主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「神礼拝・神讃美」は、この幻のように実現することを信じて、「主がこの世の王となり給うたことを感謝」すると、告白しています。

⇒「死」という最大の苦難を思う前に、「恵みの約束の神」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「苦難」先にある「神の救い」という「神の恵み」を見せ、また指示します。

⇒「龍(悪魔・サタン)」は、「神のようになる」目的を放棄していませんで、「天では」、「彼らの(いる)場所が無くなつた」のですが、投げ落とされた地上で、「神礼拝者・神信仰者」を「訴える本務」を放棄することはしません。

⇒「龍(悪魔・サタン)」は、部下の「第一の獣」や「第二の獣」を呼び出し、神礼拝者のいのちを狙います。

⇒すでに多くの人々が、**神の御子、主イエス・キリスト様**、やその弟子たちや時代の中で様々な苦難を乗り越えて来た人々によって**に神の福音**は聴かされてきたのです。

⇒最後の裁き、**第7のラッパ**とともに、**7つの神の怒りの鉢**が地に投げつけられる時、**神信仰、神礼拝**に**生き抜いてきたかどうか**が吟味されるのです。

⇒最後に、先週同様、聖書を2箇所朗読します。

### **ヨハネ第1 1:9塚本訳**

もし罪を正直に言うならば、神は真実で、正しいお方であるから、わたし達の罪を赦し、あらゆる不義から清めてくださるのである。

### **ヨハネ第1 3:5~6塚本訳**

5 あなた達はキリストが（地上に）自分を現わされたのは、（人の）罪を取りのぞくためであることを知っている。その方の中には罪がないからである。

6 （罪なき）彼に留っている者はだれも、罪を犯さない。罪を犯す者はだれも、彼を見たことがなく、知ってもいないのである。